

資料の1頁「1」と「2」に、活動の目的や活動の内容等が記載されているのでご覧いただきたい。本道のへき地・複式教育研究の振興に寄与することを目指し、「へき地性」「小規模性」「複式形態」の三つの特性を生かした教育の充実を図る研究活動をはじめ、記載の内容に取り組んでいる。その中でも今年度の活動の中から、特に重点を置いた全道へき地複式教育研究大会について説明させていただく。

1頁の「活動概要」に記載しているように、第71回全道へき地複式教育研究大会胆振大会1Stステージを9月14日から二日間日程で開催した。コロナ禍の中でありながらも、いかに安全に、また、確実に研究の歩みを進めていくか、実行委員会を中心に大会のあり方の検討を重ねて実施している。3年ぶりの会同参加も含めたハイブリッド型の開催であり、昨年度の第70回記念大会で実施が叶わなかった記念講演を1年越しで実現することができた。講師には現在の学習指導要領作成に大きく関わられた、文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室長の石田 有記氏をお招きした。また、連盟加盟校の実情等も踏まえ、これまでプレ大会と本大会を2地区で同じ年に実施していた開催方法を、今回から1地区のみに焦点化し、2年間継続して研究に取り組む方式に改正した。次年度は今年の成果を全道で共有した上で、同じ胆振地区でのFinalステージへとつなげていく。

大会の様子は昨年度のオホーツク大会で取り組んだ授業などのライブ配信、ワンモア配信を継続実施し、特に授業配信は複式の特性をより分かりやすく伝えるために最大4画面とするなど、これまでの研究成果を生かしたものとすることができた。

このような配信による研修・授業スタイルは、へき地小規模校のみならず、大規模校や中学校においても活用できるため、注目されはじめている。次年度の大会では、複式小規模校以外の、より多くの学校からの参加も期待しているところである。

以上のように、この大会では会同参加の先生方が、久しぶりに授業を間近で見る、その臨場感を味わっていただいた。また、へき地教育振興法に記載されている「より多くの教職員の研修機会の確保」という趣旨に基づき、現地で参加できなかった方にも、実際の教室に近い動画をご覧いただくことができたと思っている。

今後も道小役員の方々をはじめ、各地区の校長先生、諸先生方の支援をいただきながら、取組を進めていきたいと考えている。